



つよい子

令和7年度 学校だより

第5号

余市町立大川小学校

令和7年7月25日

【令和7年度 重点目標】 ◎ 『伝わること』を意識して生き生きと表現する子の育成
◎ 思いやりの心を持ち ルールとマナーを守る子の育成

「自律」から「自立」へ ～ 自分を鍛えて 幸せに ～

校長 大山 敏広

夏休みが始まります。
時間に追われることの少ない長期の休みは
子どもたちにとって「自分を鍛える」チャン
スです。何よりも「自分の命」を守るこ
と（交通事故、水の事故、熱中症予防…
等々）を最優先しながら、自分を鍛えるき
っかけをつかんでほしいと思います。

- ◆ 大人であれ子どもであれ、様々な欲求があり
ます。休みたい、遊びたい、〇〇へ行きた
い、〇〇が欲しい。
その欲求と自分がしなければならないこと
や状況を天秤にかけ、今何をするべきかを
判断し、行動することが「自律」です。自
律はやがて「自立」へとつながっていきます。
自律できなければ、自立は難しさを増し、
苦しさが増すことを私たち大人は知っ
ています。

- ◆ しっかりと自立し、子どもに幸せになっ
て欲しい…私たち大人は願います。そう考
えると、今、子ども達に何をさせるべきか、
更に何を我慢させなければいけないのか…
しっかりと考え、意図的に声をかける必要
があるように思います。
ものや情報があふれるこの時代、「なかつ
た時代」に比べて自律のハードルが高くな
っています。テレビやゲーム、インターネ
ット、スマホなどとの正しいつきあい方は、
自律が求められる筆頭にあげられるように
思います。
しかしながら、それらの判断を
6歳から12歳の子どもたちに
全て委ねるとことは難しい
ように感じます。やはり大人の
サポートが必要です。



- ◆ 夏休み中の生活について、考えてみましょ
う。
例えば、ご家族で1日お出かけ。旅行。親
戚の方が来て、楽しく夜更かし。少年団や
地域のイベント。…これらは日常の生活に

潤いと非日常のわくわく感をもたらす大
切なアクセントです。こういうときは、
思い切り楽しむ。机に向かう時間は、免
除。

- ◆ その代わり、それ以外の日にできなかつ
た分を取り戻す。基本的に『文字に触れ、
考える時間をつくる』ことを毎日のルー
ティーンとしながら、「めりはりを効かせ
る」ことが重要ではないかと思ひます。
何時まではゲーム。何時から何時までは
勉強・読書。見通しを言わせて子どもに
「決めさせて」ください。そしてできたら
「ほめる」。うんと「ほめる」。大人だ
ってしばしば決めたことを守れないので
すから、できたらうんと「ほめる」。
- ◆ また、長期の休みの間は、家の手伝いを
どんどんさせてください。「自分は役に立
っている。自分は家族にとって欠かせない
存在だ。」ということを実感させてくだ
さい。
はじめから上手にできなくて
も、手先を鍛え、脳を鍛え、
身体を鍛え、そして心を鍛え
ることにつながります。



- ◆ 「助かったよ。」とねぎらい、役に立つ
ことの喜びを実感させてあげてくださ
い。「暑いのによくがんばって勉強した
ね。」とやり続けることの難しさに共感
してあげてください。
成し遂げた喜びや成功体験が多ければ多
いほど、要求水準が上がる（自分を律し、
自分への厳しさを備える）と言われます。
成し遂げた喜びは、何にも代え難いもの
です。…よい夏休みとなりますように。

改めて、1学期間の御理解と温かな御支
援に感謝申し上げます。
暑さ厳しい毎日です。皆さまどうぞ御自
愛ください。